

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.18 遺伝子を遡る

今から遡ること約 6500 万年前。恐竜たちが陸、海、空を我が物顔で制覇していた時代に、我々の祖先である霊長類は出現していた。恐竜から逃げるようにして影をひそめながら生活していた。しかし、あの X day。何となく予感があった。このこみ上げてくるような不安な感情は一体なんだ。ただ、ここから逃れたい、野生の勘というやつだ。恐怖そのものだった。どうしよう。どうしようもなかった。そして、その時を迎えた。とてつもない振動と忽ち崩れる山肌。襲いくる津波の数々。立ち込める粉塵。さっきまであった太陽がかき消されあっという間に暗黒の闇が襲い掛かる。地震は収まったが、いつまでたっても明けない闇。一体何が起きたんだろう。立ち枯れる草花。次第に巨体を横たえる草食恐竜。血眼に餌を求める肉食恐竜たち。我々の祖先たちは、身を隠しな

がら時が過ぎ去るのをひたすら待ち続けた。やがて、肉食恐竜たちも飢えのために次々倒れた。最後に残る一匹の肉食恐竜もやせ衰え、骨と皮だけの様相を呈し終には身体をもたげる力も使いはて地に伏した。まさに恐竜が絶滅した瞬間である。祖先達はただただ続く闇がもたらす寒さの中、運よく手に入る木の実や昆虫、たまたま遭遇する恐竜の死骸に群がり飢えを凌いだ。気が付けば塵の隙間から垣間見る太陽。わずかながら暖が戻ってきた頃、性格のおとなしいナウマンゾウの群れがやってきた。初めは恐竜の恐怖から遠巻きにみていた祖先達も、ぬかるみに足をとられ動けなくなったナウマンゾウを石器で仕留め肉を頬張るようになった。自分たちが襲われることがないと分かるとナウマンゾウを追い込み仕留めることを覚えた。狩猟の始まりだ。

健康道場で座禅を組んでいる私は自分が糖尿病になったことに納得ができない。友人の中でも肥えているが病気とは無縁の奴もいる。俺はこんなに努力しているのに…。あまりにも不条理ではないか。この答えを求めて遠く遺伝子を遡ることにした。今ある私のルーツを求めて…。

そよかせ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村 陽一